

サステナビリティ情報は本当に企業価値へ影響を及ぼすのか

りそなアセットマネジメント 責任投資部

情報開示（ディスクロージャー）の拡充

企業価値向上を目的とした統合報告書等での情報開示拡充により、「価値創造ストーリーを明確化」する

目的 企業価値の向上

手段 情報開示の拡充
(= 統合報告書等による価値創造ストーリーの明確化)

◎情報開示拡充（価値創造ストーリー）の企業価値向上へのパス

①価値創造ストーリーの明確化

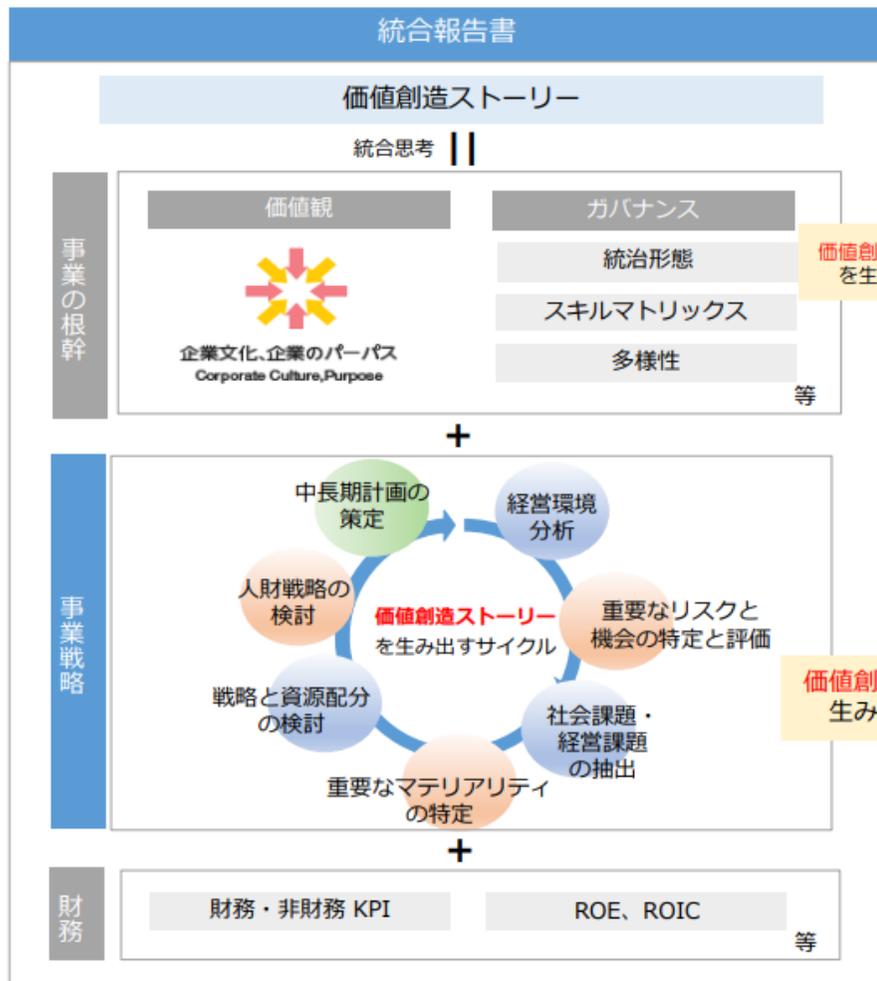
- (社内共有) 自社の価値創造ストーリーを広く社内共有することで自社の組織力向上に資するとともに、新たな「気づき」を得る機会になります。
- (社外開示) 多くのステークホルダーと自社の価値創造ストーリーに関する対話を行うことで、ステークホルダーの自社に対する理解を広めるとともに、対話を通じて新たな「気づき」を得る機会になります。
- (経営戦略) 「気づき」を自社の経営戦略にフィードバックすることで、価値創造ストーリーをより明確化する機会になります。

②ディスクロージャー・ディスカウントの解消

投資家に価値創造ストーリーを開示することでディスクロージャー・ディスカウントが解消される機会になります。

統合報告書における**価値創造ストーリー**を生み出す**基盤**や**サイクル**などを評価するスコア

統合報告書AIスコア

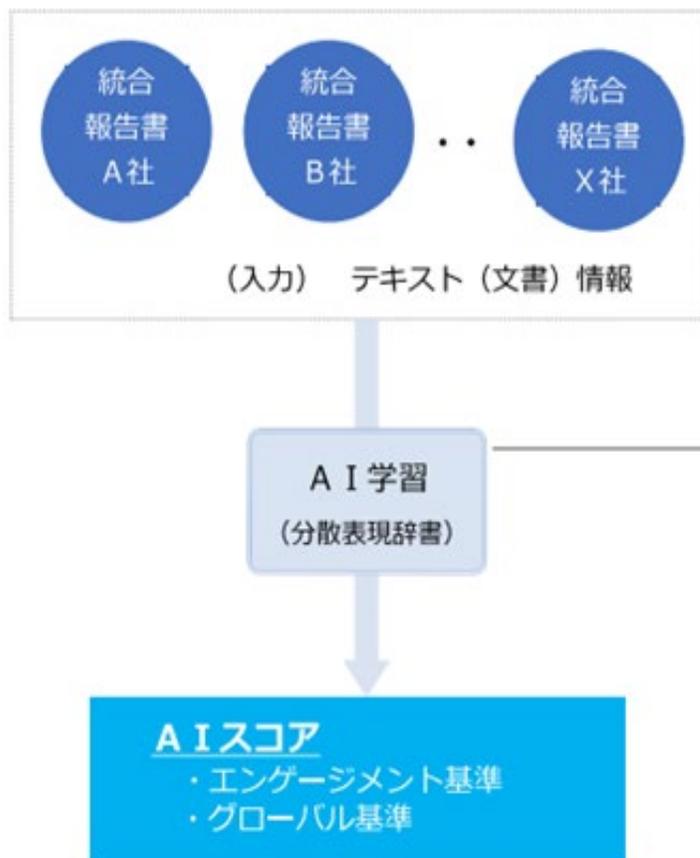


価値創造ストーリーを生み出す**基盤**

価値創造ストーリーを生み出す**サイクル**

項目	A社	B社	C社	D社	E社
総合報告スコア 総合	75.63	72.51	71.68	70.53	70.18
価値観	81.56	79.84	72.01	72.06	70.31
Purpose	83.78	83.45	75.53	73.97	70.93
Vision	77.32	76.77	74.01	67.91	66.87
Mission	72.25	69.87	69.39	69.03	64.45
Values	84.64	81.49	63.36	71.58	73.69
ガバナンス	69.04	66.65	69.24	66.91	63.88
統治形態	69.89	69.59	62.68	64.30	63.19
スキルマトリックス	66.27	61.22	61.07	63.96	68.39
取締役の持続性	60.14	63.73	58.48	65.85	62.80
役員報酬	62.74	62.65	64.44	63.75	56.66
多様性	64.16	64.19	74.75	56.28	58.05
サステナビリティ委員会	68.61	72.10	66.44	79.70	68.76
ビジネスモデル(戦略性)	73.93	57.77	79.13	58.97	56.57
経営環境の分析	62.37	64.26	66.33	67.08	61.14
重要なリスクと機会の特定と評価	60.36	61.14	62.72	59.01	58.03
社会課題_経営課題の抽出	59.16	66.03	66.14	61.64	56.95
重要なマテリアリティの特定	64.56	65.60	67.27	63.07	62.06
戦略と資源配分の検討	65.09	63.36	64.61	63.80	62.82
人財戦略の検討	57.11	63.90	63.70	73.19	58.94
長中期計画の策定	59.06	55.21	61.61	69.28	60.08
KPI	77.57	68.76	68.98	66.46	75.93
財務パフォーマンス	77.33	73.98	72.62	67.04	84.26
非財務KPIと納得性	71.93	59.41	59.48	64.25	70.63
資本コストとROE,ROIC	76.59	68.22	70.12	64.00	66.45

AIによる統合報告書分析内容



統合報告書 評価モデル (概要)

インハウス開発：インデックス運用部クオンツチーム

～ クオンツ運用で培ったAI技術の活用

1. 評価項目毎に概念語を設定し、概念語の単語ベクトルを加算することにより概念ベクトルを算出する。
2. 統合報告書の文ごとに、文を構成する各単語の単語ベクトルを加算することにより文ベクトルを作成する。
3. 文ベクトルと概念ベクトルとの概念類似度を算出して文スコアとする。
4. 評価項目毎に特定の統合報告書の文スコアの高い上位20文を抜き出し、その20文のスコア平均を用いて項目スコア(標準偏差)を算出する。
5. 特定の報告書の各項目スコアから総合スコア(標準偏差)を算出する。

(注1) AIスコアは偏差値(0~100)と対応したスコア(1~5)の両方で表示可能です。

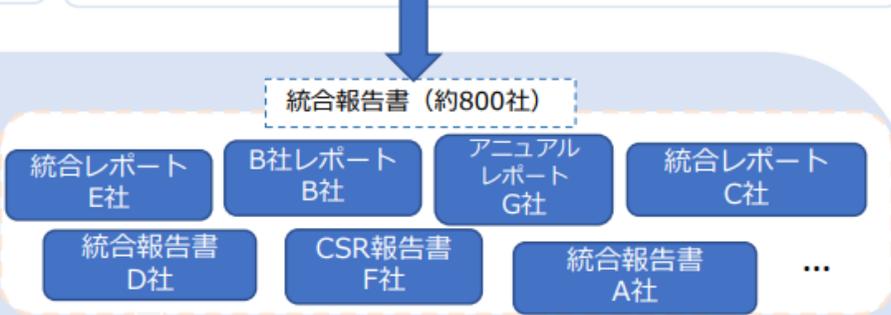
(注2) 情報加工(取得)の観点で、統合報告書発行企業であってもスコアを付与できない場合があります。

AIによる統合報告書分析内容



EDINET(XBRL)

企業のホームページ (インターネット)



当社が重視する項目

項目	A社	B社	C社	D社	E社
総合報告スコア 総合	75.63	72.51	71.68	70.53	70.18
目的	81.56	79.84	72.01	72.06	70.31
Purpose	83.78	83.45	75.53	73.97	70.93
Vision	77.32	76.77	74.01	67.91	66.87
Mission	72.25	69.87	69.39	69.03	64.45
Values	84.64	81.49	63.36	71.58	73.69
ガバナンス	62.37	64.26	66.33	67.08	61.14
統治形態	60.36	61.14	62.72	59.01	58.03
スキルマトリックス	59.16	66.03	66.14	61.64	56.95
取締役の持続性	64.56	65.60	67.27	63.07	62.06
役員報酬	65.09	63.36	64.61	63.80	62.82
多様性	57.11	63.90	63.70	73.19	58.94
サステナビリティ委員会	59.06	55.21	61.61	69.28	60.08
ビジネスモデル(戦略性)	69.04	66.65	69.24	66.91	63.88
経営環境の分析	69.89	69.59	62.68	64.30	63.19
重要なリスクと機会の特定と評価	66.27	61.22	61.07	63.96	68.39
社会課題 経営課題の抽出	60.14	63.73	58.48	65.85	62.80
重要なマテリアリティの特定	62.74	62.65	54.44	63.75	56.66
戦略と資源配分の検討	64.16	64.16	74.75	56.78	58.05
人材戦略の検討	68.61				
長中期計画の策定	73.93				
PI	77.57				
財務パフォーマンス	77.33	73.5	72.04	67.07	67.60
非財務KPIと納得性	71.93	59.41	59.48	64.25	70.63
資本コストとROE,ROI	76.59	68.22	70.12	64.00	66.45

AIスコア (A社)
~項目別に偏差値化~

テキストデータ (A社、B社、C社、...)

テキストデータ (A社、B社、C社、...)

AI学習

学習済データ

統合報告書掲載の幅広い語彙概念を学習 (約22万語(*))

独自開発のスコア算出エンジン

項目の概念
(Purpose, Vision, ...)

テキストデータ (A社の統合報告書)

多数の統合報告書 (約800社(*)) とEDINETの有価証券報告書 (約4000社(*)) をAI学習した幅広い語彙(約22万語(*))をもとに弊社の独自開発モデルがA社の統合報告書のテキストデータを解析することによりA社のAI評価スコアを算出します。統合報告書における各項目に対する記述レベルを項目別スコアとして算出してAI評価スコア(総合スコア)を算出します。

AIスコア体系

- エンゲージメント・マネジャーが統合報告書を分析する着眼点を評価項目として設定、スコア化（偏差値、5段階評定）、「エンゲージメント基準」として総合評価を付与します。
- 統合報告書分析の視点として、広く一般に認識される項目のみでの総合評価も行います（「グローバル基準」）。

<項目詳細と評価例>

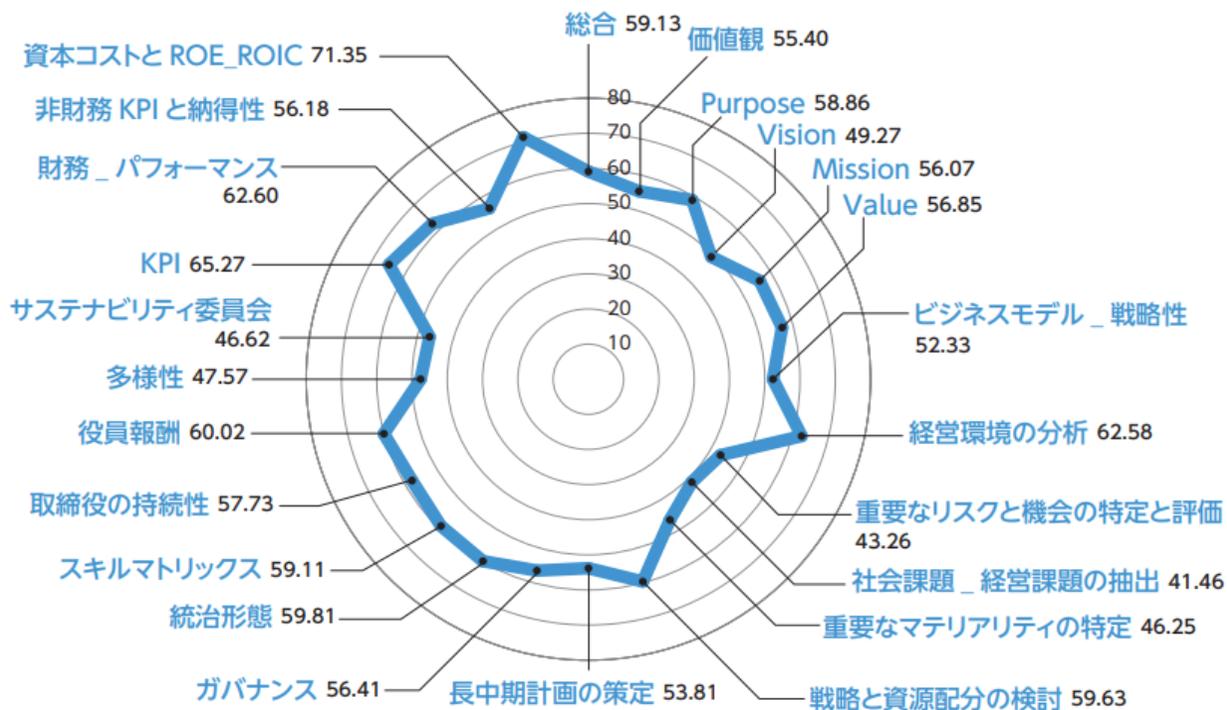
財務・非財務 統合思考
(構成要素)

価値創造ストーリー
を生み出すサイクル

項目	エンゲージメント基準		グローバル基準				
	偏差値	スコア	偏差値	スコア	項目名		
総合	60.38	5	65.47	5			
事業の根幹	価値観						
		Purpose	64.44	5			
		Vision	50.54	3			
		Mission	59.20	5			
		Value	57.85	4			
	ガバナンス		53.78	4			
		統治形態	45.07	2			
		スキルマトリックス	56.40	4			
		取締役の持続性	49.75	3			
		役員報酬	54.91	4			
多様性		54.09	4				
サステナビリティ委員会	59.93	5					
事業戦略	ビジネスモデル_戦略性		63.66	5			
		経営環境の分析	65.41	5	65.41	5	見通し（外部環境の変化）
		重要なリスクと機会の特定と評価	57.91	4	57.91	4	リスクと機会
		社会課題_経営課題の抽出	55.48	4			
		重要なマテリアリティの特定	56.61	4	56.61	4	マテリアリティ
		戦略と資源配分の検討	68.21	5	68.21	5	戦略と資源配分
		長中期計画の策定	63.84	5			
財務	KPI		60.83	5			
		財務_パフォーマンス	66.87	5	66.87	5	パフォーマンス
		非財務KPIと納得性	49.18	3			
		資本コストとROE_ROIC	64.01	5			

AIスコア(企業開示における相対比較)

■ 定量スコアの開示例



- 情報開示エンゲージメントでは、左グラフのように統合報告書の定量スコアを開示し、統合報告書の開示の相対的充実度を可視化しています。
- 対話・エンゲージメント実施の際は、担当者が評価スコアの背景や改善点について説明を行います。

■ 定量スコア例

	a社	b社	c社
統合報告スコア 総合	75.32	64.59	69.91
価値観	80.80	56.44	69.52
Purpose	82.71	54.81	70.18
Vision	78.09	55.51	65.93
Mission	70.89	56.90	63.70
Value	82.83	56.72	72.77
ビジネスモデル (戦略性)	69.27	69.65	63.98
経営環境の分析	69.89	69.11	62.68
重要なリスクと機会の特定と評価	66.37	68.97	68.18
社会課題_経営課題の抽出	60.74	62.65	62.53
重要なマテリアリティの特定	62.07	67.16	55.78
戦略と資源配分の検討	63.78	64.13	58.47
人財戦略の検討 (新規)	69.59	66.63	70.45
長中期計画の策定	74.27	70.33	56.58
ガバナンス	62.59	62.92	61.17
統治形態	60.12	58.07	57.56
スキルマトリックス	59.16	60.26	56.81
取締役の持続性	64.46	59.05	62.13
役員報酬	65.16	67.31	62.79
多様性	58.35	55.15	59.20
サステナビリティ委員会	58.99	68.15	60.38
KPI	76.87	62.56	75.70
財務_パフォーマンス	76.47	54.57	83.70
非財務 KPI と納得性	71.61	71.23	70.22
資本コストと ROE_ROIC	75.88	58.76	66.83

	a社	b社	c社
TCFDスコア 総合 (新規)	65.97	70.09	61.98
ガバナンス	62.13	69.11	61.47
サステナビリティ委員会	55.30	69.40	59.65
取締役・監督 他	66.85	65.92	61.25
戦略	63.25	76.62	59.15
リスクと機会	59.38	58.39	42.67
シナリオ分析	53.49	63.36	50.39
インターナルカーボンプライシング	0.00	46.80	0.00
CN・トランジション戦略 他	61.62	77.17	59.62
リスク管理	65.72	63.61	60.77
指標と目標	68.92	70.26	59.68
指標 Scope1 & Scope2	74.95	75.58	48.60
指標 Scope3	66.08	70.28	50.99
目標 排出量削減	63.38	65.69	55.50

	a社	b社	c社
人財戦略の検討 (詳細項目) (新規)	69.59	66.63	70.45
視点① 経営戦略と人財戦略の連動	66.63	69.86	61.81
視点② AsIs-ToBe ギャップの定量把握	72.09	62.50	69.51
視点③ 企業文化への定着	70.45	68.12	86.04
要素① 動的な人財ポートフォリオ	72.26	65.92	80.22
要素② 知・経験の D&I	72.73	66.89	66.07
要素③ リスキル・学び直し	57.32	63.43	74.64
要素④ 従業員エンゲージメント	63.66	64.17	68.75
要素⑤ 時間や場所にとらわれない働き方	47.73	39.13	47.56
要素⑥ 流動性	62.91	71.00	49.79
要素⑦ ダイバーシティ	59.77	46.71	53.99
要素⑧ 健康安全	57.36	51.60	65.34
要素⑨ 労働慣行	58.58	68.99	48.91
要素⑩ コンプライアンス	57.20	54.86	53.43

項目説明

項目	評価ポイント
総合報告スコア	価値観、ガバナンス、ビジネスモデル（戦略性）、KPIの4項目にて総合評価
価値観	価値創造プロセスの前提となる企業の価値観を評価する項目
Purpose	企業の存在意義や事業を行う目的は明確か。
Vision	企業の未来の理想的なあるべき姿は明確か。
Mission	企業のPurposeを実現する使命や目標は明確か。
Values	行動指針(規範)などにより企業の価値観を共有しているか。
ガバナンス	価値創造ストーリーを実現するためのベースとなるガバナンスを評価する項目
統治形態	企業統治のための体制・統治形態は適切か。
スキルマトリックス	取締役の選定等に知識、経験、能力などのバランスを配慮しているか。
取締役の持続性	監督機能を持続的に発揮できるような取締役会の体制が整っているか。
役員報酬	役員報酬の決定・運用について透明性の高い組織体制となっているか。
多様性	女性や外国人の活躍を推進するなどの多様性を推進しているか。取締役会の多様性に配慮しているか。
サステナビリティ委員会	サステナビリティ委員会の重要性を認識し実効性のある組織形態として設置しているか。
ビジネスモデル(戦略性)	重要課題を特定し価値創造ストーリーに最適な長中期計画を導くプロセスを評価する項目
経営環境の分析	外部環境の変化や将来予測などで経営環境を適切に把握しているか。
重要なリスクと機会の特定と評価	企業固有の価値創造プロセスや経営環境においてポジティブ（ネガティブ）な将来の機会（リスク）を適切に認識・評価しているか。
社会課題_経営課題の抽出	企業に影響のある社会課題、経営課題を適切に抽出しているか。
重要なマテリアリティの特定	抽出した社会課題、経営課題から、企業にとって重要課題を特定し優先順位付けしているか。
戦略と資源配分の検討	競争優位性を生かした戦略を立案し、適切な経営資源配分を行っているか。
人財戦略の検討	人材版伊藤レポートの重視項目等を踏まえた人財戦略を検討しているか。
長中期計画の策定	価値創造ストーリーを生み出すための最適な中長期の経営計画を策定しているか。
KPI	策定した長中期計画がどのような結果に結びついているかを評価する項目
財務_パフォーマンス	ビジネスモデルが具体的な財務指標の達成にどのように結びついたかをレビューしているか。
非財務KPIと納得性	ビジネスモデルが具体的な非財務指標や目標達成にどのように結びついたかを説明しているか。
資本コストとROE,ROIC	ビジネスモデルがどのようにROE、ROIC、資本コスト等の結果につながったかを説明しているか。